

うちの子、こんな体験をしたの？

# 「成長ものがたり」

## SAWANの秘密

子どもが変わる、そして親も変わる！



Vol.11 SAWAN特集からの2020年度版！ / 取材協力: SAWAN THAILAND



### って何？

タイに住む日本人の子どもたち向けに始まった、植林体験や異文化理解のための教育キャンプ。植林活動・ホームステイ・マップ作成・現地の人々との交流・震災時の募金活動など数々のプログラムを行いながら、「地球環境について考えること」「世界の中の日本の役割について考えること」「夢を持つこと・つかむこと」「両親に感謝すること」などを肌で感じ全力で考え、真のリーダーシップがとれる人材育成を目的としています。

2007年に第1回がスタート。今年で120回を迎えます。日本人学校の長期休みを中心に年に10回ほどのペースでタイ各地で行う活動には、バンコク在住のみならず日本からも小中高校生を中心に毎回50～100人が参加しています。

**ポアンちゃん**  
SAWANキャラクター／しっかり者で団長と子供達の間位置しSAWANっ子のリーダー。



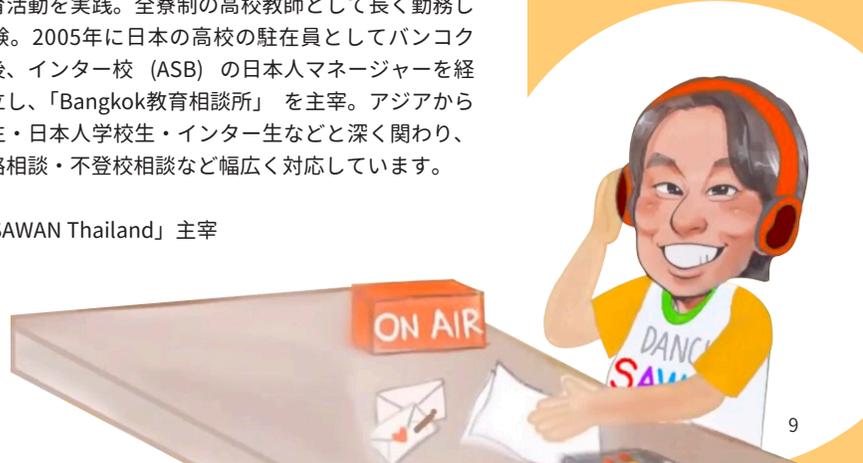
「心豊かな子どもたちを育てる」と言う意味では同志である、バンコク在住日本人画家の阿部恭子先生。SAWAN100回記念シンボルマークを描いてくれました。「希望を持って未来へ羽ばたく」という願いがこめられています。名前がないので募集中です。

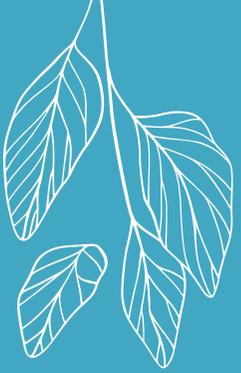
### SAWANの団長！ 斉田有太郎氏

団長ってどんなヒト？

斉田 有太郎 (SAITA Yutaro) 静岡県浜松市出身。日本では大学時代から社会教育活動を実践。全寮制の高校教師として長く勤務し教頭職まで経験。2005年に日本の高校の駐在員としてバンコクに赴任。その後、インター校 (ASB) の日本人マネージャーを経て、現在は独立し、「Bangkok教育相談所」を主宰。アジアから日本への留学生・日本人学校生・インター生などと深く関わり、学校選び・進路相談・不登校相談など幅広く対応しています。

2007年より「SAWAN Thailand」主宰





心に植えよう枯れない花を

## 植林活動

SAWANの活動の原点である植林。どこに行っても必ず、現地の人達と一緒に樹を植えています。地球に生かされている、相利共生しているということを感じられる貴重な体験です。今できることをしながら、地球のこと、将来の事を考えられるといいな。



# SAWANの活動

大金持ちになり、ファーストクラスにいつばいのる！

野口英世みたいに有名な学者になる！



ペットショップの店員になる！



受験が終わったら、SAWANに日本から参加するぞ！



夢を描くって、どういうこと!?

## 夢マップ

まずは何のために描くのか？  
なぜ夢があった方がいいのか？  
夢を実現させるため何をするか？

ゴールから逆算して何をするか決めます。先に強い目標があると、今起こっていることはすべて通過点と考えることができ、ドキドキしないで平常心で進むことができます。目先の事に一喜一憂することなく、自分の力が発揮できるんだね。

**SAWAN 夢マップ** (10/13)

第3回定期テスト  
ワークテスト2週間前までに終わす。  
テスト期間は1日3時間以上勉強する。  
数学は過去問90点以上取る。  
社会で60点は絶対に取る。  
5教科で350点をこす

2019年に達成すること

- 11月 第3回定期テスト  
国語 70点以上、数学 80点、理科 70点、社会 70点、英語 70点
- 3学期 第4回定期テスト  
国語 70点以上、数学 80点以上、理科 70点以上、社会 70点以上、英語 70点以上
- 3月 終業式に行く  
4月 春休みに帰国する

2020年 受験勉強

- 1月 日本で受験勉強に集中する。
- 3月 行きたい高校に合格する(日本、神奈川県の高校に1校2校に行く(家から通う))
- 3月 終業 SAWANに日本から参加!

9月には間にする  
3月までに SAWANに東北2回以上行く。  
9月までには SAWANに東北2回以上行く。  
9月までには SAWANに東北2回以上行く。  
9月までには SAWANに東北2回以上行く。

木村 真緒 (14)

言葉は通じなくても心はひとつ

## 国際交流

「異文化理解教育」も欠かせない活動のひとつ。SAWANでは、「物の支援より心の支援」がモットー。チェンライの村に、使わなくなったサッカーシューズを集めて寄付したことも。最近はミャンマーとの国境近くの「虹の学校」を支援しています。家庭環境や社会的状況が大きく違う子供達に夢を持つ大切さを伝えるためSAWANキャンプに招待したり、ホームステイを受け入れたり。「違う」を認める。自分に出来ることを考える。



自己表現のトレーニング

## 夢祭り

特技がある子は披露します。歌・けん玉・ルービックキューブ・バレー・チアリーダーetc...一生懸命披露します。学校ではしたことが無いのに、ここではできちゃいます。だって誰も冷やかしたりする子がいないから、恥ずかしくない！それに、見ている子はプロの応援団だから温かい拍手の渦でいい気分。いつも一番もりあがるイベント！



震災から学んだ

## 募金活動

SAWANの帰り道、東日本大震災を知った。「バンコクで何かできることはない？」の子どもたちの声で始まったBTSでの募金活動。「世界でいち早く募金活動をしている日本の子どもたち！」と日本のTVメディアやタイの新聞でも紹介され、社会科教材でも取り上げられた。海外にいる子どもたちだからこそ、母国への愛や想いを強く知ることができた。



SAWANの絆はコロナに負けない！

## ZOOM-IN-SAWAN

4月からSTAYHOMEで閉塞的だった子供たちの元気を取り戻そうと始めたZOOM交流会。リモート社会で生き抜く力をつけようと、自分の好きな事や近況など動画を作って発表したり、「コロナ禍でなくなる職業・新しく生まれた職業」などテーマを決めて意見交換をしたり。小学生～大学生だけでなく現役の学校の先生まで！世界の様々な場所から世代も立場も超え、この場所で様々なテーマについて考えます。



命の大切さを学びます。

## 食育教育

「いただきます」「もったいない」「命の大切さ」を農業体験や食事に学びます！鶏さばきは、生き物をさばくことを勧めているわけではない。怖かったり、気持ち悪かったりする子は、しなくても大丈夫。食生活の元は家庭にあるよね。SAWANで学ぶことは、命の恵みをムダにしないこと！「食べられるだけ皿にとりなさい。決して残飯にしないこと。」



自分の足で歩くように、自分の力で生きていくということ。  
具体的な「夢」を持つことで、未来への地図が手に入るということ。  
自分はいろんなヒト・モノに生かされているということ。

海外での子どもの成長という目的のために、さまざまなプログラムが組まれた体験型の教育活動。明確な教育理念に根ざし、「体験から学ぶ」「自分で考える」「感謝」を大切にされた教育の場でした。大自然のなかで、自然の恵み、人と人とのつながりを体感すると、子どもの中身はガラッと変わる。それが「SAWAN」なんですね！

次頁は、SAWANの中で育った子ども達、保護者の方々の思いなどが詰まったそれぞれの物語の一部を紹介！





小4～中3の卒業まで6年間をバンコクで過ごしたHINAKO。SAWANデビューは、小6の卒業SAWAN！どこもなく自信がなく消極的な少女HINAKOがSAWANの先輩・仲間と出会い、初めて安心できる環境を得て色々なことにチャレンジし成長していくサクセスストーリー！仲間に励まされ勇気をたくさんもらって自信をつけて、学校でもどんどんリーダーシップを発揮するようになっていきます。その変化を見てみよう。今回は日本にいるHINAKOとHINAKOママに、インタビュー♪

まずはHINAKOママに質問！

**SAWANに興味をもったきっかけは？**

HINAKOが小学6年の時、先輩ママから体験談を聞き興味を持ちました。デビューするのは同学年が多く参加する卒業SAWANが良いかと思い、私から娘に参加を促しました。それ以来、中学卒業までの3年間で、10回以上参加しました。

**初参加のとき何が心配でしたか？また、初参加以降HINAKOの様子にどんな変化がありましたか？**

タイ料理が苦手だったので、食事面で少し心配がありました。帰宅後には輝いた目で色々なできごとを話してくれました。皆と一緒に食事はとても美味しく、こちらが心配する必要はありませんでした。特にピタック島で見る星空は最高に美しい！♪と興奮して話してくれました。行く度にどんどん感想が増えていき話す時間も長くなっていきました。多くの仲間ができ、学校の教室では教わらない事を学び、大きな成長が感じられます。団長の説得力あるお話とSAWANに特別な魅力を感じ、2回、3回と参加したくなっていく気持ちが強くなっていきました。次第に指導員、班長さんに憧れを抱くようになり、経験を積み副班長、班長になった時にはリーダーとしてメンバーをまとめる大変さも経験しました。本当に遅しく成長してくれました。いつも家族旅行よりもSAWANの方がスケジュール優先順位は上でした（笑）姉を見習って妹も3回連続で参加、本帰国しましたが日本から参加するchanceを狙っています。（笑）

**子育ての悩みは何かありましたか？また、今バンコクにいる日本人親子達にメッセージをお願いします！**

特に受験生の一年は悩みも多かったです。帰国先が関西の為、進路に関する情報が少なく、親の時代とは大きく変化している高校事情、親子共に不安もありました。また思春期で親子関係も敏感になっている時期、本人なりに話しやすい先輩や帰国したSAWANメンバーのネットワークから色々情報収集やアドバイスを戴いていました。団長にも受験生の心構えや面接等のアドバイスを頂き、大変助かりました。娘は虹の学校で見て感じた経験を基に留学経験をして「世界市民」としての生き方を学び、世界で活躍できる人間になりたいと考えているので、確実に視野が広がっています。本当に有難い経験です。我が家は海外生活が長かった為、帰国した今、子供達は戸惑う事もありますが、それも良い社会勉強だと思い過しています。最後にバンコク生活の中で団長・SAWANメンバーの皆さんと関わった事をとても幸せに思います。今後も引き続き、素晴らしいリーダーとなる子供達の為にも活動を続けて頂きたいです。

次はHINAKOに質問！

**SAWANの魅力は？**

**また、SAWANを通じて、中学時代、成長を実感できたことは何？**

今バンコクにいる後輩たちへのメッセージも一緒にお願い！参加する回、人数、メンバー、参加するときの年齢などで毎回得るのが違い何回行っても成長できることです。10回以上SAWANに参加しましたが、同じようなSAWANは一つもありませんでした。毎回違うメンバーが集まり、年齢に関係なくできるプログラムに参加、時には問題発生もするけれど、お互いに助け合いながらクリア、そして大きな達成感を得て成長できます。毎回夢マップを作成する事で自分の将来を考える時間がある。多くの先輩方の背中を見ながらリーダーへの憧れを抱くようになる。大勢の人と寝食を共にし、団結力も深まる。終了後、また直ぐに行きたくなる。SAWAN口スも激しくなっていますが…。小学生の頃はただキャンプを楽しんでいたのですが、中学生では班長になり人を動かす力、まとめる力などの社会生活で必要な力を学び得ることができました。それを一番実感できたのは、中学三年生の体

育祭です。実行委員として4クラス120人以上を動かして6分間の演技を作り上げることがもすごく大変でしたが、ブロック演技優秀賞と総合優勝を貰うことができました。SAWANで養えた力があってこそやり切れたことです！！本帰国した今、タイが恋しいと思う瞬間が沢山あります。日本ではできない経験ができるのでなんでも挑戦するべきだと思います。今の生活を当たり前だとは思わずに毎日を楽しんで成長し続けてください！！

**団長語録で、最も印象に残っている言葉は？**

「ひな！やってみないとわからないよ！」失敗することを考えて積極的に行動することができなかった私ですがSAWANに参加することに周りの先輩、友達などを見て挑戦する大切さを実感し興味があることには積極的にトライできるようになりました。

**高校時代をどのように過ごそうと思いますか？そして高校生活での目標は？**

日本人学校にはなかった部活を初めて経験して壁に突き当たることが多いです。自分に厳しく限界を自分で決めないこと、部活と勉強と両立させることが目標です。

**将来の夢を、改めて教えてください！**

SAWANで訪問した虹の学校で国籍の大切さを実感し、世界を舞台にして働き少しでも発展途上国の人の笑顔を増やしたいと思いました。大学では国際学部に入り国際機関で働くことが夢です。





命の大切さを学ぶきっかけとなったのは、10年前のランブーンSAWANキャンプでの出来事です。村の人が夕食の準備をするために鶏をさばっていました。その時に『命の大切さ』を実際の体験から学んでほしい、そして、自然との共生や、食べ物、生き物、親、友達など自分の身の回りに存在するすべてのものに感謝する気持ちを育てたい！と思い、SAWANでの鶏さばきプログラムをスタートしました。

始めた当初は、ゲームのような感覚で他人を傷つけたり命を奪ったりする事件が数多く起こり、社会問題となっていた時期でした。保護者のなかには、鶏さばきをすることで、子供たちが動物虐待をするような乱暴な子供になってしまうのではないかとという心配をする声もありました。

最近は、保護者から今回は鶏さばきをしますか？するなら参加させたいです。という問い合わせがあるよね。命をいただく体験をするのは、家庭では難しいからね。体験したみんなは、乱暴になるより、「最後まで残すなよ！」「残ったのは爪だけだからお墓作らなきゃ」と、しっかりと受け止めているよね。涙を流しながらも、しっかりと見つめて、羽をむしる姿にみんなの成長が見られたよね。

普段、お父さん、お母さんから「命を大事にしないさい」と言われていたことを思い出したり、自分で気づいていくことも沢山あったみたいだよ。

初めて経験したみんなの感想を聞いてみよう！

### KEIKO

何年前か、タイに来て2年目くらいの時です。ソクラン休みに家族3人で旅行に行くことが決まりました。お父さんは旅行の前日までお仕事だったので、残業で急遽帰りが遅くなり、お母さんが用意していた晩ごはんを食べることができませんでした。お母さんは、「ご飯いらぬなら早く言ってよ」と次の日から5日間旅行で家をあけるので、そのまま取っておく事ができず、おかずを全部ごみ箱に捨ててしまいました。すっかり忘れていたその光景が、今回鶏さばきをしたときに、ぱっと脳裏に蘇りました。料理は何だっか覚えていませんが、たぶん鶏か豚のお肉だったと思います。料理をされて私たちの口の中に入って栄養になるはずのものが、私たちの体には入らず、そのままごみ箱に行ってしまったことが思い出され、なんだか苦い気持ちになりました。その時はただ「旅行に行く」「置いといたら腐っちゃうよね」という思いしかありませんでした。でも、鶏さばきをした今は、その過去の行動を恥ずかしいと思ったのです。団長からは、「それに気づけたことがすごいことだよ」と言われました。これからももっともっと周りのことや色々なことを深く考えられるようになってほしいなと思いました。

### UKI

私は食べ物に対して、好き嫌いが多く、食わず嫌いもあったのですが、自分が嫌いだと言って食べなかったものが、ちゃんとあったかくて、すごく大事にされてきたものだったということが分かりました。命を食べることの大切さを学ぶことができたと思いました。

### RINA

ニワトリを持った時の温かさや心臓の鼓動を感じたり、名前を付けたりすることに、すごく罪悪感を感じました。すごくおとなしい子だったのに、さばかれているときにはすごく大きな声で鳴いていたのが心に残っています。感謝をして食べることが、今度からはできるようになると思います。

### YURI

はじめて鶏さばきをしました。命の大切さというのが本当に分かりました。「命は大切だ」ということを何度も言われてきたけれど、(涙…)今日の鶏さばきで命は大切だということが本当に分かった気がします。これからは、そのものには命があったんだという事を思って食事をしていきたいです。

### KANON

今まででも何回か鶏さばきをしてきたんですけど、その頃はまだ小っちゃくてあんまり理解できていませんでした。去年の10月にここに来た時、毛をむしることはできたけれど、さばいているところをちゃんと見ることができませんでした。だから、今回は絶対にちゃんと全部見たいと思いました。今回で生き物の命の大切さを色々知ることができました。

### YURI

今までは「もうおなかいっぱいだから、これ食べない！」とか言って、ものを捨てたりしていました。また、人とケンカをするとすぐに「自分なんか生きててもつまらないなあ」とか思ったりしていました。でも、今日、ニワトリがさばかれてもがいているのを見て、生きたくても生きられないという辛さを…、生きていたのにどうしても死ななければならない時があるということを知り、自分が身勝手だったことに気づきました。殺される前はまああったかくて、心臓の音もしていたけど、殺された後はすごく冷たくて、血だらけで…。人間が生きるために、少しは動物が犠牲にならなくてはいけないとは思っていますが、食べないで捨てることは身勝手だと思いました。今度からは残さずに食べようと思いました。

### HIKARI

最初は「嫌だ、触りたくない！」と思いながらやっていました。でも、最後にニワトリを持たせてもらったから、ニワトリは温かくて、心臓の音も聞こえました。おとなしくしていたニワトリが、首を切られる時パタバタと暴れました。そして、やっぱり死んでしまって、心臓の音も聞こえなくなって、冷たくなって…名前を付けたり、一緒に写真を撮ったりした後に、そのニワトリが死んでしまいました。でも、そうすることで「いただきます」の意味や、本当に命をいただいているんだなあということを実感することができました。



バンコクで体験した  
震災から学んだこと



今まで感じなかったことを感じ、行動に移すことができた。中には涙を流して手をあわせるタイ人もいた。「日本が、あんな事になっているのに・・・私たちの国の為に募金活動してくれるなんて信じられない。」その後子供達の行動は日本の夕方のテレビニュースでも取り上げられていた。「世界で早く募金活動をしている日本の子供達！」タイの新聞の一面では大声で叫ぶ子供達を紹介した。その後、どこから渡ったのか中学地理資料集でも紹介されていた。

心が震えているのに、一歩が出なかった子供達が大きく成長した瞬間でもあった。中心メンバーは大学生となり、「あの時の募金活動の体験、日本を想う熱い気持ちは、タイで学んだ一番大きなこと。タイの人たちに本当に感謝している。」と将来の夢に向かってブレることなく進んでいる。



2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震。SAWANはOISCA Thailand Lamphun Centerに出発していた。バンコクに帰った時に、迎えに来たお母さん達から初めて様子を聞いて立ちすくんでしまった。阪神大震災は遠く離れた静岡県で揺れを感じたことを思い出していた。その時一人の子供が、「ねえ、バンコクで何かできることはないの？」の声に子供達が動きだした。海外で聞くこのニュースは、日本人として本当に胸が痛く悲しくなったことを今でも忘れない。

- 「日本が大変だからタイから何か送ろうよ。」
- 「お金を送ったほうがいいよ。」
- 「どこに送るの？」
- 「まだ、どこに送ったらいいのかわかっていないよ。」
- 「まずはお金を集めなきゃ。」
- 「他には何かできないかな？」
- 「みんなが元気になるような絵を描いて送ろう！」
- 「自分が元気づけられた曲をリストアップして送ろう！」

子供達の発想は多岐に渡り OISCA Thailand と共に BTS駅での募金活動が始まった。大きな声を出してペットボトルいれを募金箱代わりにした。行き交う人たちは声をからして、汗を流しタイ語で「日本を助けて！」と叫ぶ子供達に手を差し伸べてくれた。

「日本頑張れ！」と声をかけてくれる人、財布をひっくり返して中身を全部いれてくれる人、その場でカードで現金を降ろして20人程の子供達の箱全てに入れてくれる人、子供達の一人はお礼にと折り鶴を渡した。そんな中、南タイでも台風の被害がおこった。

- 「僕たちがお世話になっているタイの人たちも困っているのだから募金活動しようよ。」
- 「僕たちが安心して生活ができるのはタイ国のおかげだよ。」



2007年3月  
SAWANは産声をあげました



OISCA THAILANDのタイの子供達が「日本の子供達と一緒に植林をする」という活動を知り、団長がバンコクで知り合った日本人家庭のお子さんを預かってアユタヤの小学校に行ったのがスタートでした。

その学校はOISCA THAILANDが毎年「子供の森計画」で訪れている学校で、彼らは日本の大人の団体と多く交流を重ねているため日本人には慣れていました。

現地での活動は、班ごとにタイの工芸品を作ったりネイチャーゲームをしたり、お菓子を作ったりといういつもの慣れた活動でした。

しかしその日、昼食後の休み時間にグラウンドでボールを蹴っていたタイの子供達に日本の子供達が自然と入っていき、サッカーの試合が始まりました。その光景はまさに、サッカーに国境はなく言語もいらない、子供達同士の体で感じる対話となりました。

今までアユタヤを訪ねた大人の訪問団体とは違い、子供たち同士でしか分らない交流が始まったのです。日本対タイの試合は接戦となりました。しかしその試合結果よりも、子供達が流す汗がとても印象的でした。

そのあとの植林は互いに汗を流して打ち解けた子供達が、お互いの名前やあだ名を呼び合い、ともに土を、

そして水を運んで植林をすることができたのです。

新しい形での国際交流、子供達の友好的のスタートとなりました。

OISCA THAILANDも、世界一大きいバンコク日本人学校の子供達との交流を求めているので、まさに社会教育団体SAWANのスタートの日となりました。

SAWANの名前は、この時の各班のタイ語で決めた名前の中で、ゲームで一番になった班の名前から取りました。

タイ語で「天国」という意味を持ち、夢や希望が叶い気持ちよく登っていけるようにという願いを込められています。

名前を提案した子は、今では海外で途上国支援の活動をしているそうです。



## SAWAN の日程

★ 第 121 回

09 月 03 日 ( 木 ) 夜発 ~ 07 日 ( 月 ) 朝帰着  
ビタック島でソクラン GREAT SAWAN

★ 10 月の連休も調整中

決まり次第、HP にアップします。

## [ZOOM-IN-SAWAN の日程]

毎週土曜日 13:00 (日本 15:00) スタート  
子供たちは誰でも参加できます。詳細は、  
LINE: [@310nbvbp] に連絡してね  
YouTube: [SAWAN Thailand] をチェック  
過去の活動動画が見れるよ!

★ HP には、今後の活動予定・過去の活動の紹介・虹の学校支援・日本の寺津小との交流・過去のニコラボ記事など盛りだくさん!

ぜひ見てみてね!

## SAWAN 事務局

Web: <http://sawanthailand.com/>

Mail: [sawanthailand2007@gmail.com](mailto:sawanthailand2007@gmail.com)

FB: SAWAN Thailand 植林

Line: (保護者) @753kciuf

(子供) @310nbvbp

Tel: 081-720-5156 (日本語)

## Bangkok 教育相談 (学校選び・進路相談)

Web: <http://sow-ed.com>

Mail: [sawanthailand2007@gmail.com](mailto:sawanthailand2007@gmail.com)

